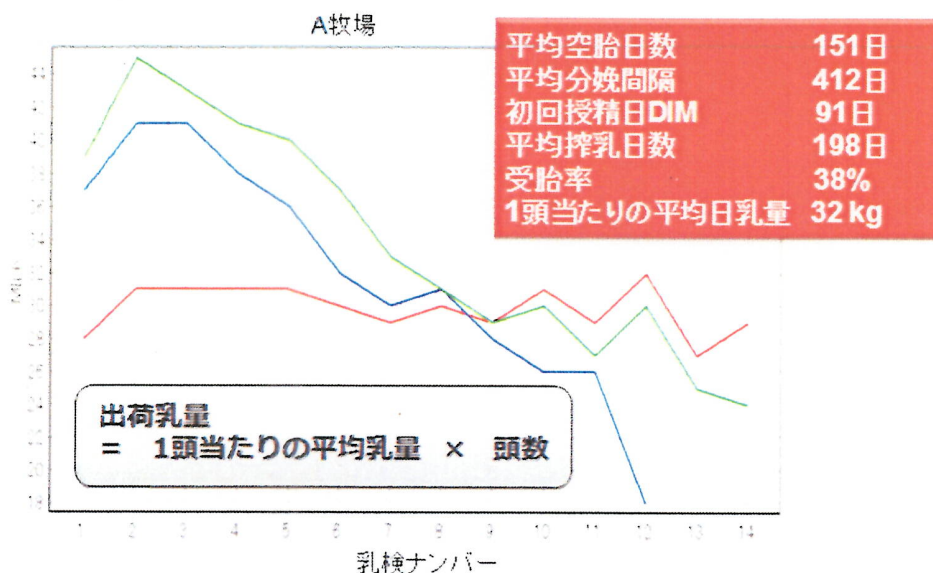


～ もっと発情を見つけよう ～ 繁殖成績改善に伴う乳生産へのインパクト

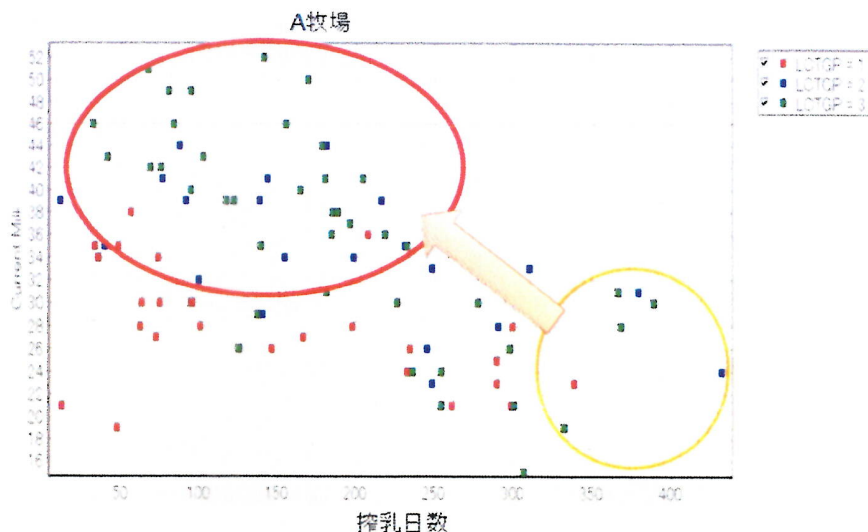
今回は繁殖成績改善に伴う乳生産向上への可能性について紹介します。

下記は A 牧場の各産次数における泌乳曲線を表しています（赤＝初産、青＝2 産、緑＝3 産以上）。繁殖成績は決して良好とはいえません。こちらの農場は平均個体日乳量は 32kg です。出荷乳量は 32kg × 搾乳頭数になります。A 牧場の出荷乳量を増やすには平均個体乳量を増やす必要があります。繁殖成績が改善することでどのように個体乳量が増加するのか見てみましょう。

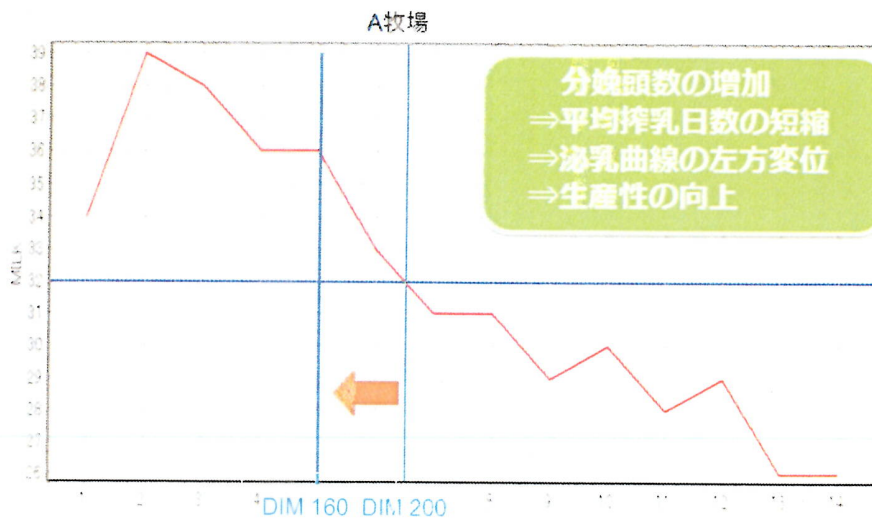


下記は A 牧場のある日の乳検乳量をプロットしたもので、横軸が搾乳日数、縦軸が乳量を表しています。搾乳日数が 250 日を過ぎたあたりから乳量が 30kg を下回り、平均乳量を下げる牛が増えていっています。これらの特に 350 日を過ぎても搾乳している『繁殖の手こずった牛（受胎の遅れた牛）』をできるだけ少なくし、1 日でも早く乾乳、分娩を迎えさせてあげる（すなわち 1 日でも早く受胎させる）と、泌乳後期の牛を減らし泌乳ピークの牛が増えるため平均日乳量が増加するはずです。

各個体の乳量プロット



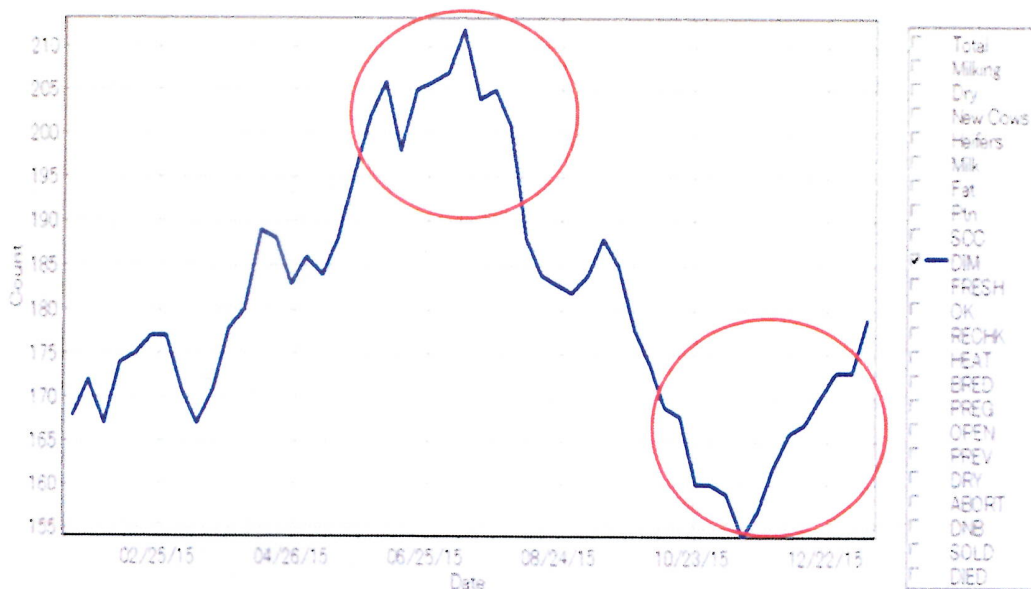
農場の泌乳曲線



繁殖が良くなり、分娩頭数が多くなることで平均の搾乳日数が短縮され、泌乳曲線と平均搾乳日数の交差点が左方変位し、平均日乳量の増加、乳生産の向上へとつながるわけです。毎月の安定した分娩を確保することで常時搾乳日数が短縮されたまま維持されることが理想です（平均搾乳日数の目標は常に170日以下）。

こちらの農場は下記のとおり年間を通した平均搾乳日数にバラツキがあり、分娩が立て込むことで搾乳日数が一気に低下したり、分娩が少ないと搾乳日数が増加したりと激しく波打っています。

年間平均搾乳日数の推移

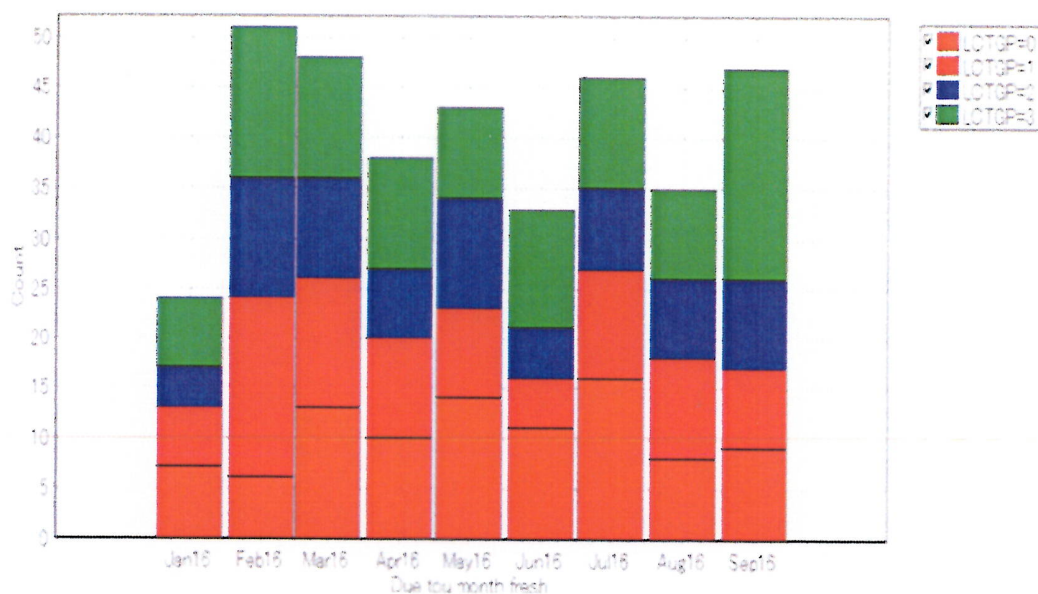


搾乳日数が大きい時と小さい時を比較すると、各ステージでの平均乳量はあまり変わりませんが、ピーク時の搾乳頭数が増えることで全体の平均乳量が増加することが見て取れます。

搾乳日数	Pct	Count	平均DIM	Av 乳量	Av PCTF	Av PCTP	Av305ME
1-40	15	9	21	33	3.8	3.1	10324
41-100	10	6	72	38	3.4	2.8	11030
101-200	26	16	144	37	3.5	3.2	10084
201-305	26	16	263	30	3.6	3.3	11279
over305	24	15	353	25	3.6	3.6	12565
Total	100	62	200	32	3.6	3.3	11119

搾乳日数	Pct	Count	平均DIM	Av 乳量	Av PCTF	Av PCTP	Av305ME
1-40	14	9	22	37	3.4	3.1	10394
41-100	19	12	64	44	3.3	3.0	11641
101-200	31	20	140	39	3.7	3.2	12312
201-305	23	15	248	30	3.9	3.4	10956
over305	12	8	399	24	3.9	3.6	12600
Total	100	64	167	36	3.7	3.3	11635

安定した妊娠牛の確保を！



常に安定した分娩頭数を確保して搾乳日数の短縮を目指しましょう。